フォッサマグナは日本の割れ目

永見 哲

話も前に……これは私が今年の試験休みに行った校内一分析一地質一青鞜株フリーランの話です念の為。

時は四月始めの平日の午十時ごろ、所は新宿駅アルプスの広場、山屋さんたちが列車を待っている所に似た様な事をしているがわけのわからないズタ袋を持った男が一人まぎれこんでいる。

サイクリストはこれにたえなくてはいけない。つまりこの非常はキタナクかつ大きな鞄行袋と紐きまズタ袋を持って周囲の注目をあびる事に。

もし近くに好奇心のおう盛なかキでもいようもんなら……

かキ(横に聞く)「あの袋なーに?」

親「エーなんだろ。」

かキ「聞いてくる。」(こちらにオズオズと近づいてくる。)(サイクリスト無視)

かキ「ソノーこれ何が入ってるんですか?」

サイクリスト「これ? 自転車だよ」(もいいっぱいやさしく)

かキ(親に報告に行く)「自転車だってー。」

かキ(しばらく親と話した後戻ってきて)「この四角いの何ですか」
注.フロントバッグのこと

サイクリスト「自転車につけるバックだよ。」

「かキ「へーどこにつけるの?」(だんだんおもしろくなる)」

「サイクリストハンドルのとこだよ」(この頃国国の人の注目)

「上にのっけんの?」

以下際限が無いので略するが結局ハンドルを引きずり出すはめになることはうけあう。

となるはずだったが今回はちがった。山屋の女の子がふしぎそうな顔をして「これ何ですか」と来たのである。

当然返事からしてちがう。「ッこれはですねー自転車をがうして中に入れてあるんですよ------」以下をかれをしないこと、までしゃべる。ヨハハハ

そして翌朝6:00ごろちの駅前(ちの=茅野,念のため)

輪行していると、当然ヒマなタクシーの運ちゃんが寄って来る。以下V.S.O.P的問答

運ちゃん「おー自転車かー、重いだろ」 サ(持ってみー)

サイクリスト「えー まー」(サイクリストは手を休めずに返事する)

運「何キロぐらいある?」(ムなもしろか)

サ「えー13キロぐらいですかねー」サ(どうせいくらか聞くんだろ えーとブーレンネ)

運「えーと、それいくらぐらいするん?」サ(かれたがい)

サ「えーと、12~3万ぐらいですねー」サ(今日はどこまで行くか聞くんだろ えーとペダル、ペダル)

運「で、今日はどこまで行くん?」サ(どこでもええやろ)

サ「大河原まで行こうかなー」サ(えーとおくびょーすぎて)

運「何時間ぐらいで走るん?」サ(疾走したろか)

サ「さー，日がくれるまでにゃうくでしょーね」

運「ふーん」サ（何か文句あるんかい？）

運ちゃんはたいていここらで話題がなくなって立ち去るかなって見ている。

ところが相手がサイクリストとなるとなかなかではすまない。

まずふつうのあいさつから会話は始まる。

「今日はどこまで行かれるんですか？」

「えー秋葉と分校にえて天河原ぐらいまで。オタクは？」

「同様銀行にと思ってますねん」（物好きなやっちゃ）

などと月並みな天気の話をしている間に相手の自転車を鋭い目つきでバシッバシッと観察する。

「はー しゅ、ですか自慢の方ですねー」（勉強やがったな）

「えー おとしぐらいに買ったんですけど今はないですかて」

「はー オタクはカンペですねー」（この成金め）「ギャバシティ（ビーじゃ）乗りますか？」

「えー なんとか，二九も良りんですがやっぱり鉄レコが最高ですな」（どこがえーんじゃまんなコットー品。）注．鉄レコとは鉄制カンパレコードのことです。

以下際限が無い故に略すが、さりげない言葉の中に毒のある会話がアア発止とつづく。

時一なんのかんので走り出したのが8:00ごろ。なんで2時間もうじゃうじゃとかもうと今一つ天気がえなかったのと寝のり一件をしていたのと気のサイクリストのせいである。

ビューンと枝突峠をかけ上るとスピードも出てきて眼下に茅野の街や田園風景がダイナミックに広がる。

と，ここまでは良かったのだが，峠でくつろいでいるとバスがドドッと来て中からガキどもがドドッと降りて来たかと思うなり ワヤワヤカヤカヤワイワイガヤガヤドタバタ，早々に退散になる

あたたかな日ざしの中を快調に下れる。夏しきも割と良くついつい眠くなってしまう夜行明け。

長い下りにあきたころ高速に着く。絵葉書のハガキのある寺があるが見てもおもしろくも面白くもない。注絵葉書を知らない人は勝手に調べてください。

高速で食料をしこたま仕入れて分杭峠に向う。

*紅葉の道を通るがこれもおもしろくも面白くもない 南アルプスー林道への分岐点ではトラックはビンビン通るしダラダラのぼるし個人的に眠いしたるいしどーも調子が良くない。

市ノ瀬を過ぎたあたりから地道になる。パワーに物を言わせて登るがついにタカトミッてしまう。40×24では歯がたたないのでしばらくふてくされた後，低速の軍力30×24にぶち込んでガラガラ回して登る。注タカトミを知らない人は本人に聞いてください。スポーツ用語でかなと思います。

どーもさっきから上の方で人の声がすると思ったらトラックが脱輪してエンコしてた。オキノドク。

ヘアピンをクリアすると木々の間から峠と分杭で登って来た道が見える。(オレはあんな所にいたのか，アーアあそこまで行くのか)

峠に着く，ちょうど正午，したたま買って来たのをしたたま食べて写真をとって，当然の帰結でネムクなる。

自でしばやあらかくちょう石も転んでザックを濡つつうはオヒルネタイム……，……．

ハナの頭をはかがハイ回って目かもめた．日がサげって来た，明はて明，南風，雑霊，山に笠，ヒヤハイ。注おの前兆である。

下るッ下る，どんどん下る，ゲートが恐くて峠に行けるか！ちょっとテーパをすべらせてカーブをクリアして次のカーブへのルートを見定めて，ホをけちらして下る。

で，下ってると，ウォップ，大型トラックが道幅一杯に寝って来おった。しかも蛇腹を組んで。ワシはどこを走ればいいんじゃ，左は落ちるしキモイので山側によってせいぜい身を細めて通ろうとすると前は大石，ウォップウォップ右はトラック左はカベ前は大石カベにしばって。（教訓プレーヤは早めに）

結局砂ボコりが通りすぎた後，手の平をすりむいていた。まあ命があっただけでもめっけもん。手にほーたりをぐるぐるまきにして急もどりながしで下る。

鹿塩川にそって下ると鹿塩温泉がつく，谷のウラに塩見岳に連なる山々が望める。

遠方の分岐を左にとると少しで大河原に着く，今夜の宿は赤鹿館，小渋橋の近くにある。

宿に入ってくつろいでテレビなどを見ていると雨が降り出した。山はかすにかくれてしまった。

食事は、なかなか自分っ方とまえる。ところで個人的意見であるが、どーもYHというのは民宿等に比べて相対的に高い様な気がするのですがどんなもんでしょ。

天気予報を見る。ムッ明日は晴じゃダメ、今の内にふってしまえと思いつつ大部屋を一人で占領している。……

朝、どーんと雨音が聞える。絶好の日和である。

ゆっくりアップをおねて走り出す。日はまだ低く、山は長い影を落としている。

さすがに朝早いせいか車は全く来ない。やがて地蔵とりつけがふき出すこの正面に地蔵峠が望める。地蔵峠に下る沢をわたって尾根にとりついて登り始める。林道は工事中となっていて通行止であるがかまわず通ってもよいし迂回してもよいし尾根にとりついても良い。工事現場にぶつかるかぶるとこから下れて旧道に入る。トラバースを注意して割とはっきりした山道を何回か曲がるとささやぶの中の峠に出る。

峠には、その名の通り、地蔵がまつられている。展望は全く無いが、その佇まいは心を和ませるだろう。

ここで煙草でもすえれば絵になる奴どと考えても始まらないのでそろそろ下り始める。

少し下ると川沿に合流する。右に川を見ながら、夢のほそ道と言うべき道を下る。時々沢で道はとぎれるがルートはすぐ見つかるだろう。自分でルートを探しながらの下りは未知への期待とスリルに富んで仲々楽しい。パスハンのダイゴ味である。

道がなくなったら河原だろうとやぶだろうとしにかく水の流れる方へ下れば良いと言う気楽さ~~[illegible]~~でどんどんする。

ガマガエルをふまえたり様に注意して沢をトラバースして行くと河原に出るはるか下に登山道が見える。

ふと上を見ると大きいっぱいかかえたケーブルが通って行く。あれが夢の二条ロープウェイか。

登山者が多い所迄でもと上村にまで下れる。(とはいえこの時ってら長い)

で、和田の分岐点に来たのが二年少し前、これがきモイ。

最初の計画では、ここに来るのに長すぎる様なら青崩峠はカットのつもりだったが、行ったれ、行ったれと言うことでGO!

少し登った所でお弁当(特製大型おにぎり)をHiCアップル500cc とともに食べる。

再び登り始めてすぐガードとなり、水をまきながらぐいぐい登る。

旧鉱業街道の名残りの石垣が目につくころにはもはや頂とすぐ近く日頃の鍛りはどこへやら目はすかり前に雄大な青崩が見えているのだが次はあの日影で休むのだと言う決心ばかり。

服装も楽にはれかえた。毎度の事ながらこうまう事の水はうまい。

ここより先は山道でいかがしの子供が案内してくれるとうう。思った以上に大きな書籍が目の前に見える。(書籍とは大きなかがしのこと)峠には建てした道標と地蔵が二体ある。風景は雄大でいかにも大断層チックな直線的な谷が南北に連なる。

ここから先は遠江の国である。数度かうおまったフッシュマグナの旅もここで終りである。なぜか一人で感かいにふけったりするが是った者にとってはとっても良い気持ちなんでありました。

ながしかし静岡県はこうかは鉱物の生きかた計画はおくれてがッかまっていた。

峠でしばし休憩した後下り始めたのだが、ちょっと下っても自転車に乗せてくれないのである。なかなかしつこいこの道は遠切れるわ、えらい目にあってもうた。

しばらくトコと足神社がある。何かしらんが出はまくそうでリキ無しと悩んでる人は一度行ってはどうでしょうか。

しかし林道に出た時は自転車はこうして使うものだと再確認をしたんだけである。

水窪への道を下っていると、前を走る車の中からふかき様が笑いながら手を降っている。こちらとしても気げんが良かったんので手をふったりして、結局、芸を見せてやる事はしてあげのと

コーキをやってみたらとてもよろこんでいた。

ビコーキを知らない人は、玄木さんか山口か安井に聞くとおしえてくれます。

浜松まで来ると見る話も聞いた事はあったが男はだまって秘密で輸行した。(男がつかれていたというのは単なるうわさにすぎない。)

※解説、

ヌンヤマグナは中央構造線とも言われ、南アルプスでは、茅野から秋宮峠を経て高遠に至りさらに分杭峠から大河原を通って青木川、地蔵峠、遠山谷とぬけて、青崩峠から水窪へ通じている。(ハイハイ物ごさしたりで地図を見る!)

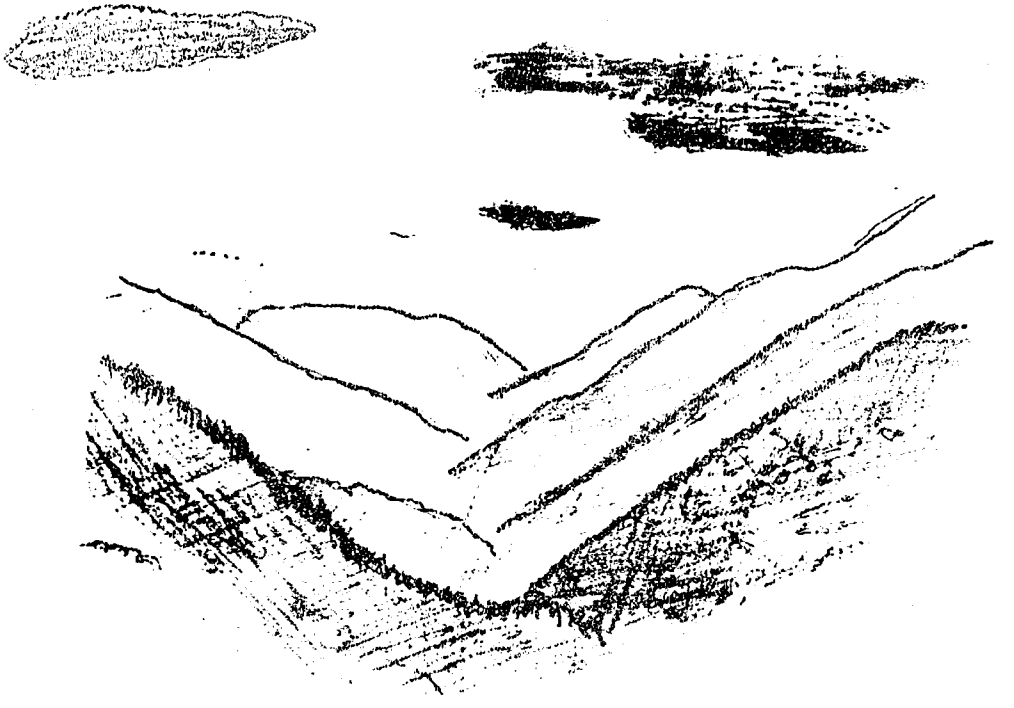
この赤石山脈と伊那山脈とはさまれた谷間の四つの峠をこえて遠江から信州への道は古へより信州から他国への最短経路として利用された。

それ故現在でも地蔵峠では林道工事が進んでいる。もし静かな地蔵峠を味わうのならあと数年の内に行くべきであろう。

また、分杭峠は、割と車の交通量も多いので注意を要する。

コースについては逆コースは何かと無理が多く南下した方が良いと思う。

食料は買える時にしこたま買っておく事、(いつまでもあると思う友達と金と店)



高崎にて

S.N.